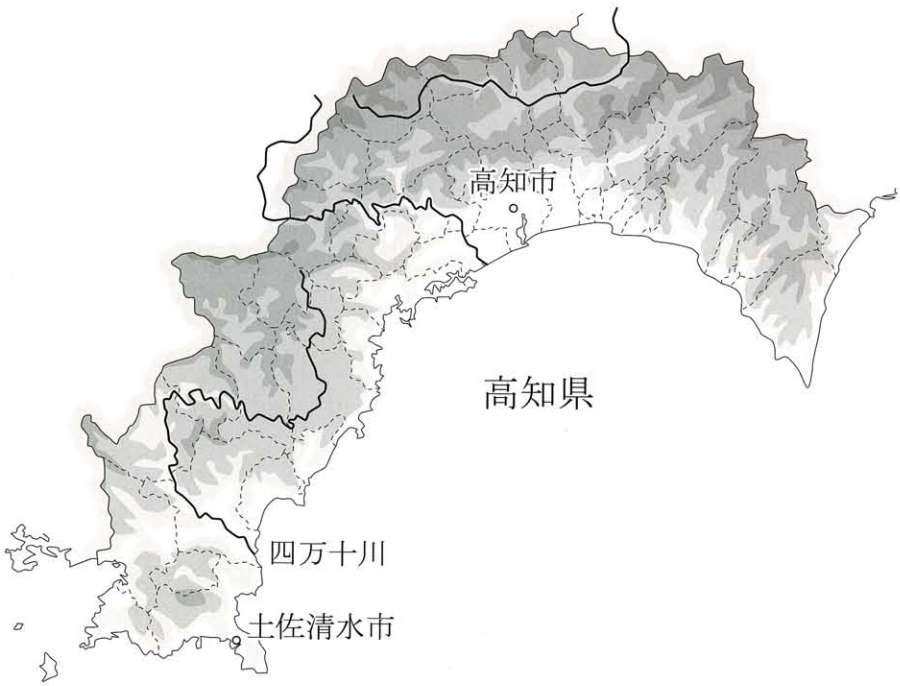
KA GU MI

加久見城館遺跡群

試掘確認調査概要報告書2



2008年3月

土佐清水市教育委員会

○例言

1．本書は，土佐清水市教育委員会が2007年度に実施した試掘確認調査の概要報告書である。

2．調査体制：土佐清水市教育委員会生涯学習課 課長補佐 芝岡恵三。調査協力 高知大学教育学部，高知県教育委員会文化財課，㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター。その他詳細は巻末抄録に記載。

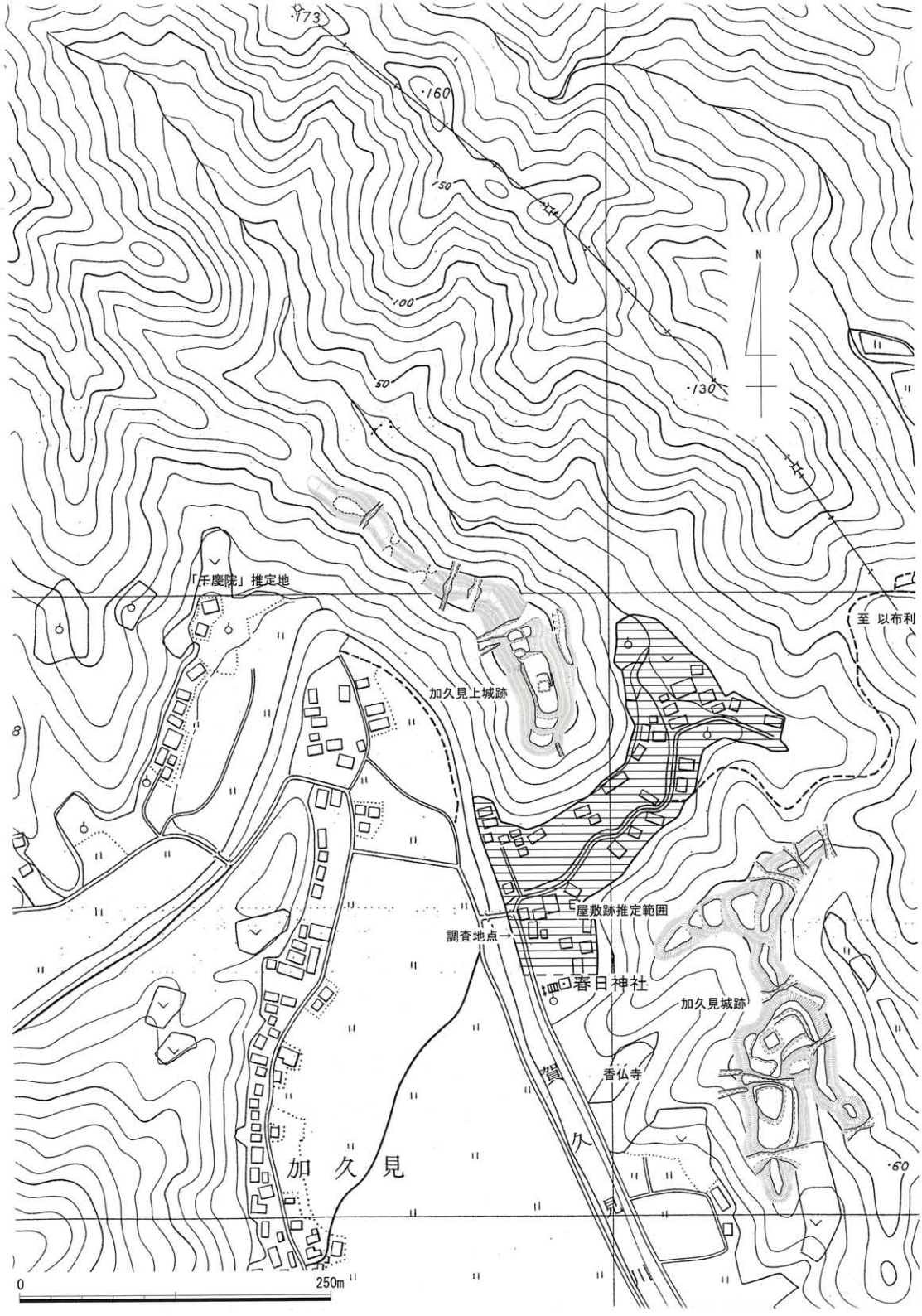


図1　調査地点及び周辺図

○ 調査に至る経緯

中世の土佐・幡多荘に下向し，戦国期の地域権力として権勢を誇った土佐一条氏は著名であるが，その外戚となった土豪が加久見氏である。その故地は本市加久見地区とみられてきたが，同氏の発展過程や居館の位置等について，具体的なことはほとんど分かっていなかった。

土佐一条氏について2002年度より科学研究費による調査研究を行ってきた高知大学では，加久見氏の歴史的重要性に着目し，加久見地区に所在する山城跡や香仏寺五輪塔群の調査を実施した。その結果，加久見城跡では15世紀後半代頃の城普請が確認され，香仏寺の五輪塔群は，14～16世紀代を中心とする四国でも有数のものであることが判明した。また長宗我部地検帳からは，当地に一定規模の屋敷があったことが読み取れた。これらの成果を受けて本市教育委員会と高知大学は，加久見氏に関する資料を得るための試掘確認調査を2006年度に実施した結果，宮本地区において中世に遡る遺構・遺物を検出した。そこで本市では2007年度の国庫補助事業として，同地区における遺構の規模や遺跡範囲についての資料を得るための試掘確認調査を実施することとした。

○ 調査の方法

昨年度検出した遺構の規模や性格を調査するため，当教委及び高知大学が設定した中央部のトレンチTR３，KTR１・２を一部拡張する形で調査区を設定した他，遺跡の範囲を掴むため，新たにTR５，６を設定した。掘削は表土のみ重機を使用して除去し，包含層以下は人力で行った。試掘確認調査であるため，遺構を破壊しないように心がけ，目的を達した場合は必ずしも遺構埋土を完全掘削しなかった。当地点では概ね２面の中世遺構面が存在するが，上面に遺構がある場合はその保存を優先した。調査終了後は土嚢やシートで遺構を保護し，埋め戻した。TR３-W，KTR１（第２面），TR７の合計62㎡，TR５は5.8㎡，TR６は6.7㎡を測る。

香仏寺では，現在の入り口付近に２ヶ所のトレンチを設定し，旧参道等の検出を試みた。

石列１北側遺物出土状況

青白磁

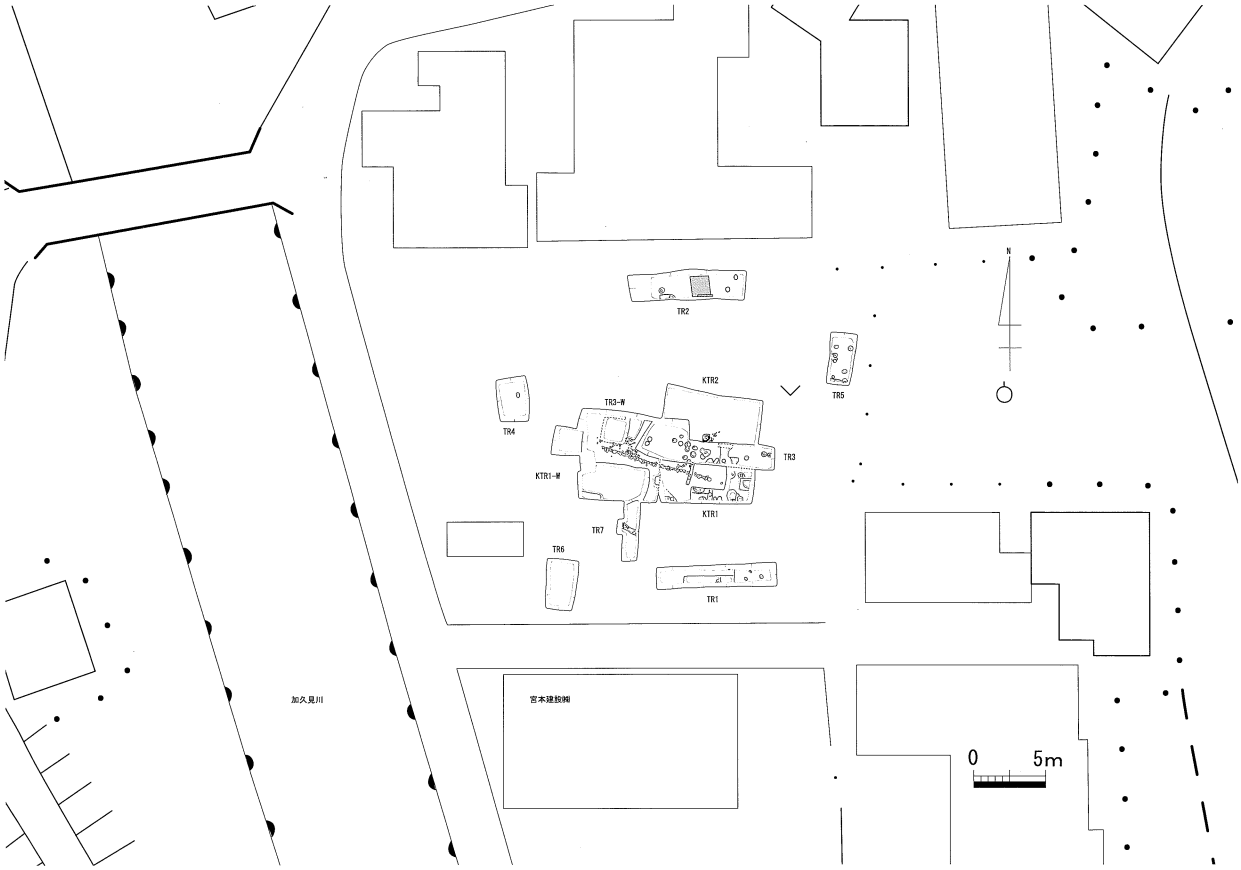


図２　宮本地区試掘坑配置図

○ 調査の成果

１．出土遺物

中央部の調査区（TR３-W，KTR１）が広く，出土遺物も多いが，他のトレンチも遺物密度に遜色はない。その中で，石列１の北側では15世紀を中心とする遺物が散布する状態であった（写真）。全体の概要は以下のとおりである。

中世前期：青白磁梅瓶（せいはくじめいぴん），青磁碗，瓦器（がき）椀，東播系須恵器鉢，土師質土器杯・皿

中世後期：青磁碗，白磁皿，青白磁（せいはくじ），天目茶碗，古瀬戸折縁皿・卸皿，常滑焼甕，備前焼鉢・壷・甕，瓦質土器（大和系火鉢，亀山系甕，土佐型鍋），鉄滓（てっさい），土錘（どすい），土師質土器杯・皿

近世初頭：唐津焼皿　　近世～近代：陶磁器・瓦

瓦器椀は畿内系で，13世紀後葉とみられる。中世後期の陶磁器は15世紀代が中心である。概ね昨年度と同様の遺物に加え，青白磁や天目，在地産瓦質土器が出土した。16世紀に位置付けるものは本年度は香仏寺を除いて未確認で，近世以降の遺物は少ない。

２．検出遺構

昨年同様，大きく分けて中世後期と同前期に属する２面の遺構面を確認した。

中央部の調査区では，まず昨年検出した石列１の延長を確認し，確認長8.8ｍとなった。東端部は乱されているとみられる。石材長は20数～30数㎝で，部分的に２段分が残っている。北側に面をなすよう並べられ，所々に礎石とみられる石材があることから，建物の基礎遺構とみられる。昨年のトレンチ隅で確認した礎石状遺構 SX１との関連も考えられる。本遺構の直近で出土している遺物の時期は北側に散布している遺物群と同じで，15世紀代に位置付けられる。

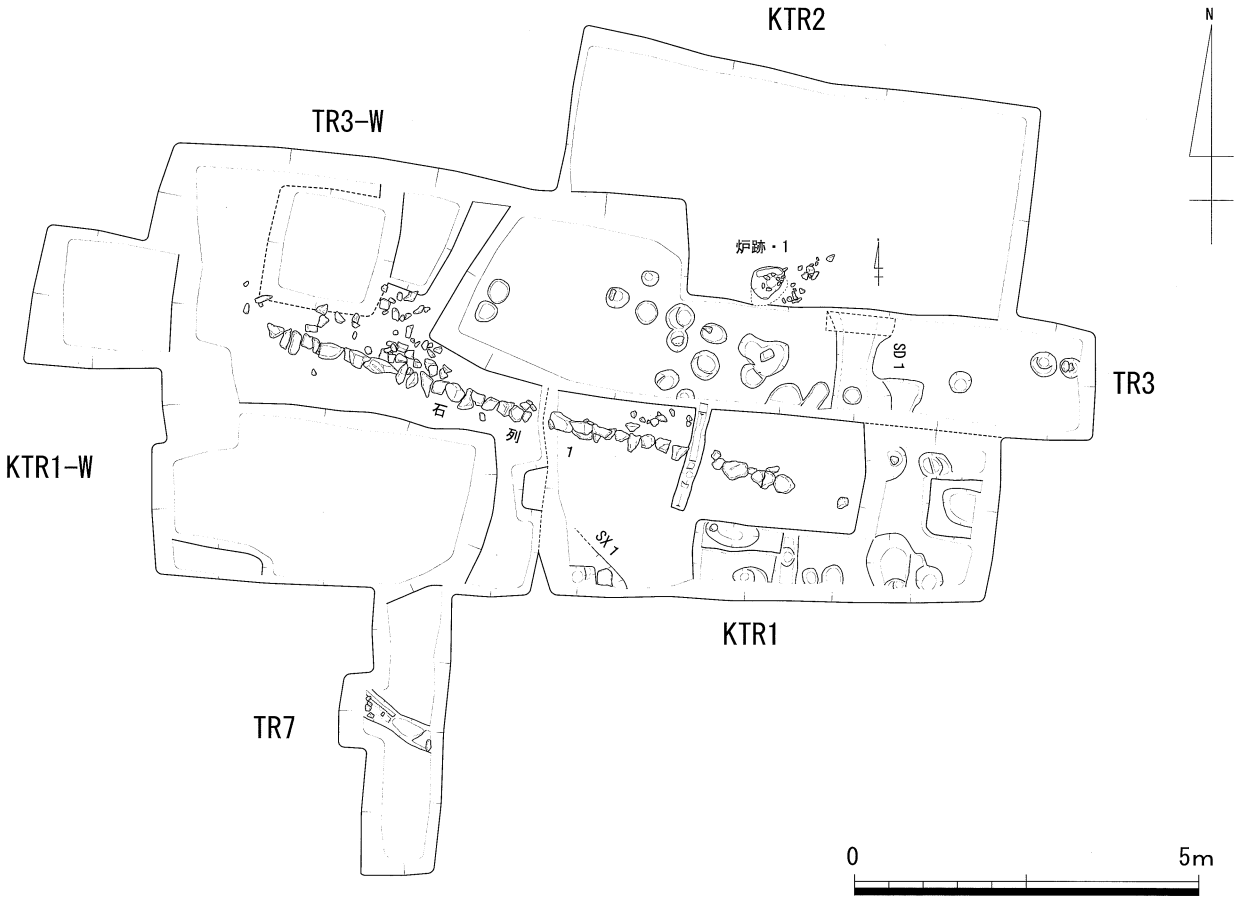


図３　2006・2007年度調査区 中央部遺構配置図

中世後期面の遺構がない部分では下層面まで掘削を行い，掘立柱建物の柱穴群を検出した。中央部の調査区では建物跡の重複が想定できる。また，山側のTR５でも該期の遺構･遺物を検出した。柱穴には瓦器椀や土師質土器片が出土するものがあり，青白磁梅瓶もTR５の柱穴上位から出土している。

３．その他

対象地の旧地盤や堆積層は，概して西にある川側へ緩やかに傾斜しており，中央調査区の西部では中世の遺構・遺物が急減する。土層断面をみると，中世後期以降の層は川側に向かって徐々に厚くなる傾向があり，山裾と河川に挟まれた狭隘な立地条件の中で，徐々にではあるが敷地が安定していった様子がうかがえる。TR５の様相からみて，山際まで屋敷地として利用していたことが考えられ，青白磁梅瓶の出土位置に注目すれば，山寄りに主要な建物があった可能性もある。

香仏寺調査区では２ヶ所にトレンチを設定したが，現代整地土下の土砂堆積が厚く，谷であった旧地形が複元できる。炭化物の集中跡や少数の土師質土器（中世末～近世）を検出したが，遺構は確認できなかった。

○まとめ

本年度新たに確認したものや，注目される事柄についてまとめる。

出土遺物では，貿易陶磁器の中でも出土例が限られる青白磁梅瓶がある。博多や鎌倉の他，関東の有力な屋敷で出土しているが，四国ではこれまで，土佐守護代所である田村城館，津野氏の拠点である姫野々城跡，有力な寺院跡である坂本遺跡，(伝)松山城跡での出土が知られるのみである。

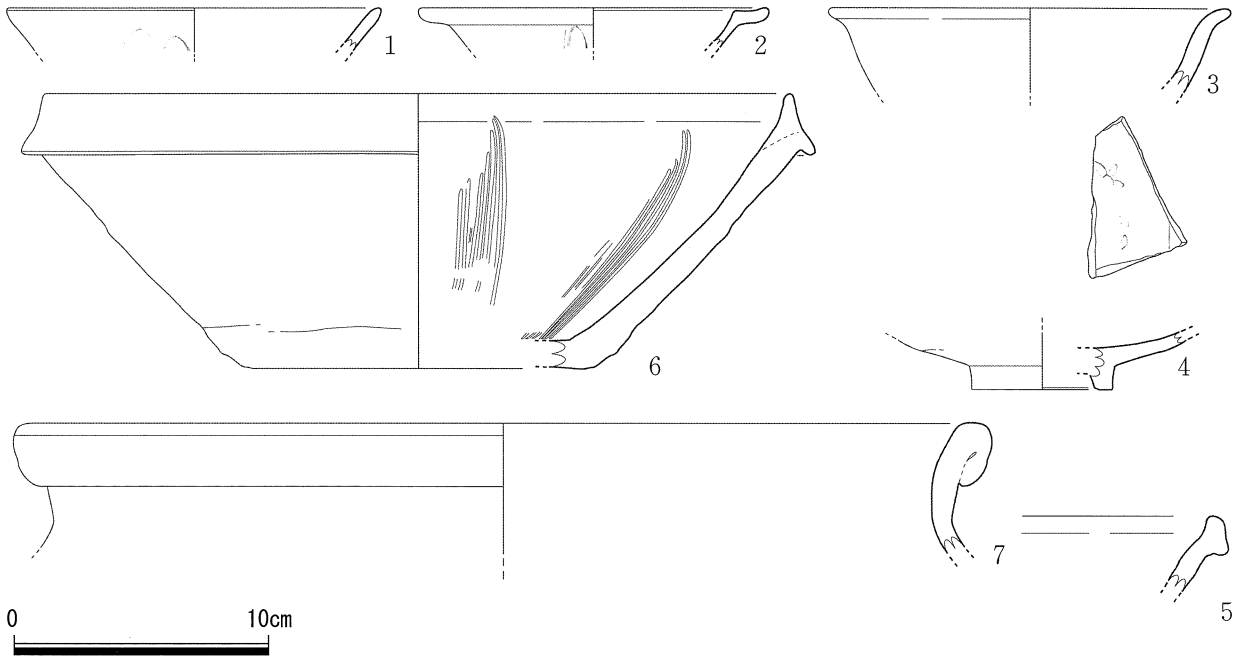


図4　出土遺物（1～3青磁，4白磁，5須恵器，6～7備前）

昨年度の調査では13世紀後葉の楠葉型瓦器椀が出土しており，土佐では該期では初めての出土例であった。同期の楠葉産瓦器は，他地域でもごく限られた拠点遺跡でのみ出土していることから，中央権力との密接な関連が想定されている遺物である。本年度の青白磁梅瓶と併せれば，13世紀後葉における本遺跡の成立が，海上交通上の立地を背景に中央の動向と密接に関連したもので，当時の幡多荘以南村の管理にも関わった可能性がある。

その他の遺物では，昨年度と同様に古瀬戸，常滑，備前，畿内系の瓦質土器，亀山系甕，貿易陶磁器といった15世紀頃の搬入品が目立つ。四国西南端での出土例であり，太平洋や豊後水道，九州南部方面の海上交通との関連が興味深い。中世前期も含めて，四万十川下流域での交通・流通拠点としての機能が想定されている具同中山遺跡群やアゾノ遺跡・船戸遺跡，幡多地域で卓越した勢力を誇った金剛福寺との関係も考慮するべきであろう。

遺構では15世紀頃に位置付けられる石列1がある。一般に，寺院等を除く施設での礎石建物の普及は掘立柱建物より大きく遅れ，土佐では16世紀中頃から岡豊城等の主郭部分で採用され始めるが，その正確な時期を含めた初現期の様相については不明な点が多い。石列1は該期の建築形式に関する重要な資料であり，それまで集落にはなかった構造の建物が，本遺跡で先駆的に導入された可能性が考えられる。

以上のように本年度の調査では，本遺跡の特質及び当地域の豪族加久見氏の系譜について考えることのできる新たな資料を得ることができた。

石列１北側 天目茶碗

TR５ 青白磁梅瓶出土状況

石列１北側 備前擂鉢

石列１

ふりがな		かぐみじょうかんいせきぐん						
書名		加久見城館遺跡群						
副書名		市内重要遺跡試掘確認調査概要報告書２						
編著者名		芝岡恵三・松田直則・池澤俊幸						
編集機関		土佐清水市教育委員会						
所在地		〒787-0392　土佐清水市天神町11番２号　Tel.0880-82-1116						
発行年月日		西暦2008年３月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
加久見城館遺跡群	土佐清水市加久見字宮本，字柿木1149番	39209	090090	32°54’22”	132°59’53”	2007年11月12日～12月12日	80㎡	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
加久見城館遺跡群	城館跡	中世	掘立柱建物跡，石列	土師質土器，貿易陶磁器，国産陶器，東播系須恵器，瓦器，瓦質土器，鉄滓		青白磁梅瓶をはじめとする貿易陶磁器や国産陶器が出土。 礎石を含む建物基礎遺構も検出。		

TR５柱穴出土　青白磁梅瓶

現地説明会

調査終了状態（西より）